
あなたのそばにいたい

怠け者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたのそばにいたい

【Nコード】

N4838D

【作者名】

怠け者

【あらすじ】

どこにでもいる普通の高校生春川一希と幼馴染みの綾川七瀬の甘酸っぱい恋愛物語……………

第一話 学校（前書き）

小説よむのは、好きだけど書くのは初めてなんでどうか
守って下さい。 温かく見

第一話 学校

「……と言う訳で来週から3年生を送る会の練習をします!!」
と、僕達クラスのHRアヤカワ長綾川七瀬ナナセが目をキラキラさせ、帰りのHR
で言った……

「どーせそんなの……運動部の奴等が張り切って暴れて終わりだ
ろ……」

僕は、心の中で呟いた。

僕の名前は……ハルカワ イツキ春川一希何処にでもいる普通の高校2年生
好きな事は、遊びと読書まあ読書と言ってももっぱら読むのはマン
ガである (´・`、;))

苦手なのは、勉強と学校行事……

「よっ！一希帰りゲーセンよろうぜ(笑)」

コイツの名前は……モチツキレイ望月零
零とは小学校からの親友である。

「零悪い今日はちよつと……帰る約束してんだまた今度な！」

「なんだよゝまたかよ……いいよなゝお前は七瀬ちゃんとラブラ
ブで(笑)」

「ちげえよ……ただの幼馴染みだつうの!!!」

「今日は、俺の両親と七瀬の両親が出かけてるから仕方なく七瀬と帰るんだ分つたな？」

そー言つて俺は零の肩にポン！と手をおいた。

そう俺、春川一希と綾川七瀬は親が生まれる前から知り合いで、こゝして何ヶ月に一回 子供残して遊びに行くのである・・・だから七瀬とは、赤ちゃん頃からの幼馴染みである。

なので七瀬に恋愛感情抱いた事はない。

俺のとなりに七瀬いるのが、当たり前なのである。

「そんな事言つて・・・誰かに七瀬ちゃん取られちまうぞ？七瀬ちゃん可愛いし、スポーツできて・・・その上勉強まで、できるから結構モテてる見たいだぜ？」

知らなかった・・・確かによく考えれば七瀬の周りには、女子だけじゃなく男子も多い・・・

僕がそんな事考えていると・・・

「いっちゃん帰ろく」

七瀬が後ろから顔出した

「な...七瀬？えっ...ち...ちよ...うわぁ.....」

ドターン!!!!

僕は、へんな体勢でイスに座っていたせいで、後ろから顔出した七瀬に驚いてその場で勢いよく倒れた・・・

「い...いっちゃん!?だ...大丈夫？」

「大丈夫？じゃねえよ……いきなり後ろから顔出す奴がいるか？あー死ぬかと思っただ……」

「ゴメンね……でもへんな体勢でイスに座ってるいつちゃんが悪いんだよ？」

「ま……まあそれも……そうだな……」

「ね？でしょ？いつちゃんが悪いの」

「お前なあ……自分が悪いと思っただろ？」

「もーそんな事より早く帰ろ？（笑）」

「そんな事って……まあいいや……んじゃ帰りますか？」

「うん」

「じゃ零また明日な」

「あつ 零君またね」

「一希七瀬ちゃん襲うなよ」（笑）」

と、ふざける零を後にし僕達は学校を帰ることにした。

第一話 学校（後書き）

書いたらものスゴく大変だった……
てムズい（ノー¥）

小説っ

第二話 帰り道

「いつちゃんと帰るって………久し振りだね」

七瀬は、僕に向かって無邪気な顔で微笑んだ。

「あ……ああ……。」

帰りに零が言った言葉気になっているのか僕は、七瀬の顔を見る所か緊張して………まともに言葉を出す事も出来なかった………そんな僕に気付いたのか心配そうに七瀬が……

「どうしたの？なんか……あつた？」

僕は、

「な……なんでもないよ……。」

としか言葉が出なかった………

「ふ〜ん。なんか今日いつちゃんおかしいよ？もしかして………恋
煩い？恋だったら相談にのるよ？」

と七瀬が微笑みながら言った。

「ち……………違うよ!!!!」
僕は、すかさず否定した。

「ん〜ホントに?隠さなくてもいいよ?(笑)」

七瀬が笑いながら言うてくる。

「ち…違うって言うてるだろ?それより七瀬は、どーなんだよ?」

「え…何があ〜?」

「零から聞いたぞ?七瀬結構モテてるんだろ?七瀬こそ好きな人いないのかよ?」

「え〜いつちゃん気になるの?(笑)」

「ま…まあな……………幼馴染みだし…気になりくらいするだろ?」

「ふ〜んそうなんだ……………」

「で…いるの?いないの?」

「ん…とそれはね……………」

「それは?」

「教えませうん」

「えっ……ええ、何だよそれ!!」

僕はちょっと焦らされたせいか……結構大きい声で言ってしまった。
すると七瀬が……

「しー!! いったちゃん声大きいから!!」

僕が周りを見ると僕の声に驚いたのか歩いていた人達がこっちを見ている。

「……ゴメン。」

「でも……七瀬が焦らすから……」

「じゃあ……いったちゃんが今度の3年生を送る会のバスケットで……スリーポイント決めたら教えてあげる」

「言ったな? 絶対だぞ?」

「うん」

「約束破ったら……俺の言う事一つ聞いてもらっからな?」

「はい……はい分かりました(笑)」「……………」

「……………」

「……………」

その後これと言った会話もなく……10分くらいたったあたりで家の前まで着いた。

「いっちゃんご飯とか……………大丈夫?」

おもむろに七瀬が言った……

僕は、

「ん……………まあ大丈夫だよ?」

「七瀬こそなんかあったら電話しろよ?」

「うん 分かった」

「じゃまた学校で。」

「学校でね?。」

その夜僕は、七瀬の好きな人を考えつつ眠りについた……………

第三話 お昼休み時間

正直……………昨日はあまり寝れなかった。

七瀬の好きな人が気になり寝れなかったのだ……………

どうしてだろう？七瀬の好きな人考えると、それ以外の事が頭に入らなかった……………

「……っちゃん？……いつちゃん!!」

「ああ〜七瀬……………どうした？」

僕は、七瀬が呼んでいる事に気が付き

「どうした？」

と聞いてみた。

「どうした？じゃないでしょ？さっきからずっと呼んでるのに〜もうお昼だよ？」

時計を見ると、もうお昼の時間半分が過ぎていた

「おお〜もう昼かぁ……………って昼ううう!!?!?!今日弁当持ってきてないんだ早く購買に行かないと!!!!七瀬なんでもっと早く起こさないんだよ!!!」

「さつきからずつと起こしてたよ〜いつちゃんが起きなかつたんでしょ（怒）」

「まじかよ・・・もう売ってないよな、やきそばパン購買のやきそばパン人気だし・・・」

「そーゆと思って買ったよ。やきそばパン（笑）」
と言って七瀬は、僕にやきそばパンを手渡した。

「あ・・・ありがとう。でもなんで、やきそばパン買ったって分かつたんだ？パンなんて沢山あるのに」

「だって、いつちゃん昔からやきそばパン好きでしょ？それより、なんでこんなに寝てるの？また夜更かししたの？」

「それは・・・」

七瀬の好きな人が気になってと言えるはずも無く

「そ・そう昨日ゲームのしすぎで夜更かししちゃってさ〜寝不足だったんだ」

とウソをついた。すると七瀬は、

「ふう〜んそうなんだ（笑）まあいいけど早く寝なきゃだめだよ？身体壊したら大変だから」

「分かった。ありがとよやきそばパン」

と言いながら僕は、零居るの屋上へと向かい走った。僕が息を切らし屋上へ着くと零が不機嫌そうに一人でご飯を食べていた。

「零、すまん遅れた」

「遅え・・・かなり遅え・・・てめえ今まで何してたんだ？（怒）」

「いやちよつと昨日考え事をしていたら眠れなくてさっきまで寝てた・・・」

「はぁ・・・まあいいや何だよ、その考え事って」

「いやあ大したことじゃないんだけどな・・・」

「なんだ〜また七瀬ちゃんのこと考えてたのか？」

「ああ〜うんまあ・・・」

「おおっ!?!? やつと自分が七瀬ちゃんのこと好きって認めたか？」

「いやそーゆうんじゃないかって七瀬の好きな人って誰なんだろうって気なってる・・・」

「へえ〜七瀬ちゃんって好きな奴いるのか・・・」

「だろ? 気になるだろ? それで昨日眠れなかったんだよ」

「ふう〜んまあでもお前今は、時間気にした方がいいぞ?」

「なんでだ?」

「次の授業が体育でしかも昼食時間は、あと五分だ(笑)」

「まじかよ・・・まだやきそばパン食ってねえよ!!」

「しらねーよ。じゃ先に授業いっとくから」

と言つと零は、走って屋上から去っていった。

第三話 お昼休み時間（後書き）

すみませんかなり遅れました・・・orz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4838d/>

あなたのそばにいたい

2010年10月15日09時52分発行